

「食」は、人をつくる

校長 柏原 奈保

「見て！すごい！がんばってる！」

夏休み中のある日の夕方、犬の散歩で近所の公園を歩いていると、こんな声が聞こえました。声のする方を見てみると、セミの幼虫がなんと滑り台の支柱を上ろうとしていました。支柱はつるつるして滑ってうまく上れません。声の主の子どもと一緒に幼虫を近くの木の下まで連れていきました。支柱と違って木の幹は上りやすいようで、幼虫は懸命に上り始めました。私はこれまでセミの抜け殻や羽化は見たことがありましたが、幼虫が木を上るのは初めて見ました。脚をガシガシと動かして垂直な木を力強く上っていきます。「頑張れ、頑張れ」と応援しながら見ていました。セミは卵から孵化して幼虫になり、そのまま土の中で何年も過ごすというセミ。木を懸命に上るその姿は、心に残る姿でした。

「3年ぶりの行動制限のない夏休み」「第7波の感染拡大が続いた夏休み」、子どもたちは、どのような夏休みを過ごしたのでしょうか。

7月に第1回の学校保健委員会を行いました。学校保健委員会は、学校保健法等に基づいて行われているもので、子どもたちの健康に関する課題についてテーマを決め、年間を通して活動を行うものです。今年度、本校では、「健康で笑顔がすてきな人をめざそう」を目標に、「『食』について考えよう」というテーマのもと取り組んでいます。

第1回目の今回は、全校児童の「食」に関するアンケートの結果や各学級の取組が発表されました。アンケートからは、「9割近い児童が朝ご飯を食べて登校している」、「好きな食材は1位が肉・2位が野菜・3位が魚」、「野菜は約半数の児童が嫌い」と答えているなどがわかりました。また、給食の残量が多い現状も報告されました。

近年、食生活の乱れや栄養の偏りによる子どもたちの肥満や痩身、体力の低下など、子どもたちの健康に関する問題が深刻になっており、「食」に関する教育の重要性が叫ばれています。横浜市では、「学校における食育推進指針」が策定され、健全な心身の育成のための「食」、食文化への理解や生産者への理解、学校での生産活動への取組や生産者とのふれあいなどを8つのテーマとして挙げています。

今年度、保健委員会では「もっと野菜を好きになってもらいたい」と様々な野菜を育て、その様子を紹介しています。自分たちが口にする食物がどのようにしてつくられるのか、自然の営みと生き物をいただく意味などを考える機会になればと思います。家庭科や特別活動での栄養指導、給食を通じた食に関する指導だけでなく、子どもたちが自ら進め、発信する活動は子どもたちの心に届くものになるのではないかと期待しています。

食べ物は子どもたちの身体をつくるものです。つまり、生涯すこやかに生きていくもとななる大切なものです。食べ物を大切にする感謝の心や食事のマナーなどは社会性を育み、生き方につながるものではないでしょうか。一度身についた食習慣や健康に関する考え方は容易には改善されません。だからこそ、機を逃すことなく指導していきたいと考えます。